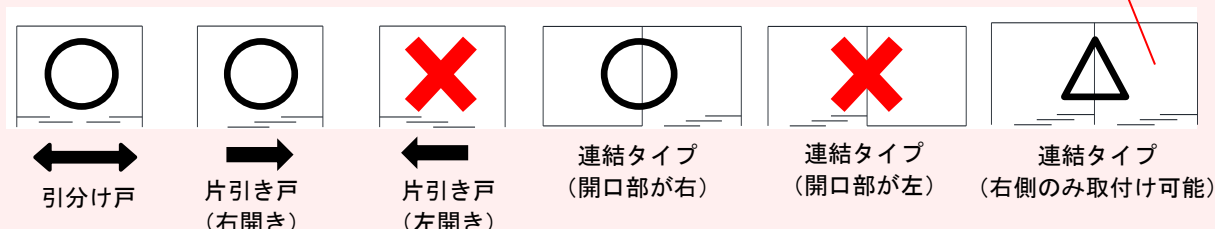


- 組み立てる前にこの組立説明書を必ずお読みください。

⚠ 注意

- ① 基礎がベタ基礎であることを確認してください。布基礎では取付け出来ません。
ブロック点置き基礎では地震の揺れが本体に伝わらないため設定した震度で解錠されません。
- ② 片引き戸タイプは扉を右開きに設定してください。
左開きでは地震時自動解錠装置は取り付けできません。
連結タイプは取付け位置が正面向かって右側の開口部であることを確認して下さい。
左側の開口部に取付けると装置が正常に作動しません。

右側に取付けて下さい



- ③ 鍵がスムーズに解錠されるように扉の建て付け調整をしっかりと行ってください。
- ④ 本製品は精密機器となりますので取扱いには十分注意してください。
- ⑤ 組み立て完了後は必ず切粉を取り除いてください。
- ⑥ 組み立て後、各部のボルト・金具の締め忘れがないか確認して下さい。
- ⑦ 安全のため必ず手袋を着用して下さい。

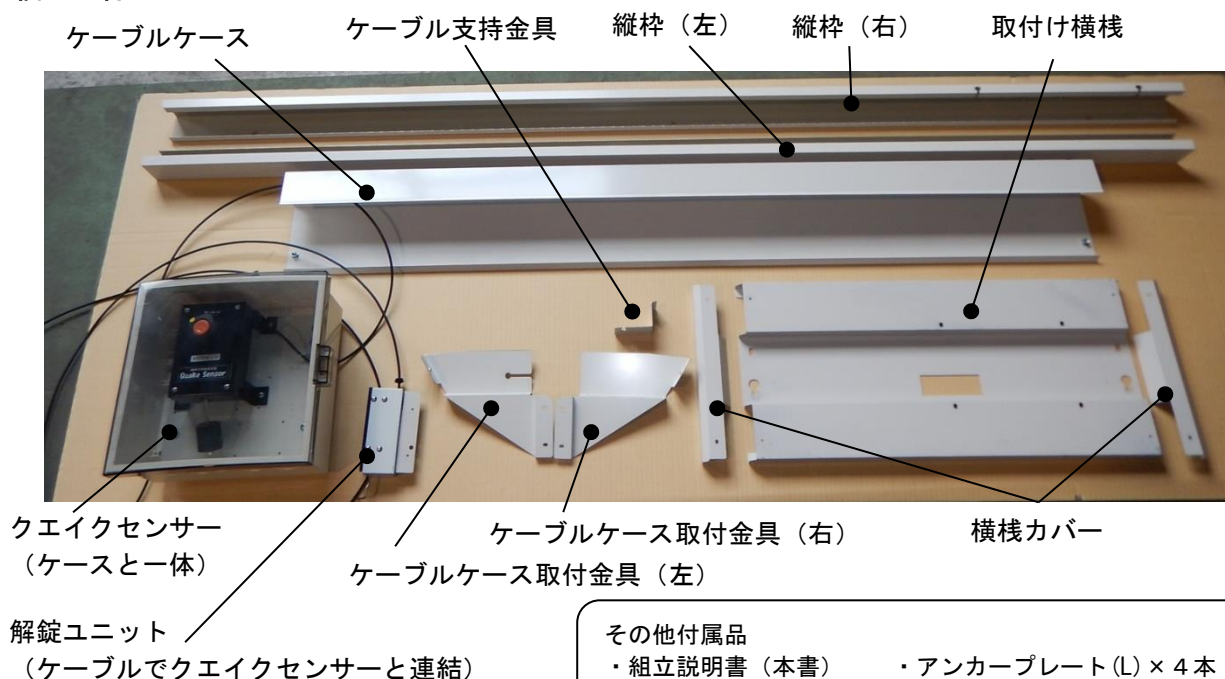
- 組立に必要なもの（事前にご準備下さい。）

- ・軍手 ・水準器 ・脚立 ・電動ドライバー ・+（プラス）ビット
- ・M5 六角ビット ・7φドリル ・5φドリル（片引き戸タイプのみ）
- ・当て木（厚み 20mm 以下）（片引き戸タイプのみ）

- 梱包組み合わせ

梱包名	梱包番号	間口22		間口25		間口29		間口36	
		Lタイプ	Hタイプ	Lタイプ	Hタイプ	Lタイプ	Hタイプ	Lタイプ	Hタイプ
解錠装置梱包	LM5-7101	1	1	1	1	1	1	1	1
取付け横桟梱包	LM5-7102	1	1			1	1		
	LM5-7103			1	1				
	LM5-7104							1	1
縦枠梱包	LM5-7105	1		1		1		1	
	LM5-7106		1		1		1		1
ケーブルケース梱包	LM5-7107	1	1			1	1	1	1
	LM5-7108			1	1				
梱包数計		4	4	4	4	4	4	4	4

● 梱包内容



その他付属品

- ・組立説明書（本書）
- ・取扱説明書
- ・ボルト一式
- ・テスト記録用紙
- ・アンカープレート(L) × 4本
- ・クランプ、クリップ一式
- ・商品シール
- ・注意ラベル

● 梱包明細

梱包番号	部材名	数量
LM5-7101	地震時自動解錠装置一式(クエイクセンサー、解錠ユニット)	1
	ケーブルクランプ	2
	コードクリップ	2 (1)[0]
	組立説明書(エルモ地震時自動解錠装置用)	1
	取扱説明書(エルモ地震時自動解錠装置用)	1
	テスト記録用紙	1

梱包番号	部材名	数量
LM5-7102	ELDクエイクセンサー 取付け横桟 A	1
	ELDクエイクセンサー 横桟カバー	2
	ELDクエイクセンサー ケース取付金具(左)	1
	ELDクエイクセンサー ケース取付金具(右)	1
	ELDクエイクセンサー ケーブル支持金具	1
	ELD地震時自動解錠装置付きエルモ 商品シール	1
	ELD地震時自動解錠装置付きエルモ 注意ラベル	1
	ボルト一式	六角ボルト M6 × 15
		六角フランジナット M6
		セルフドリルビス 4φ × 13
		低頭ネジ(金色) M4 × 10

梱包番号	部材名	数量
LM5-7103	ELDクエイクセンサー 取付け横桟 E	1
	ELDクエイクセンサー 横桟カバー	2
	ELDクエイクセンサー ケース取付金具(左)	1
	ELDクエイクセンサー ケース取付金具(右)	1
	ELDクエイクセンサー ケーブル支持金具	1
	ELD地震時自動解錠装置付きエルモ 商品シール	1
	ELD地震時自動解錠装置付きエルモ 注意ラベル	1
	ボルト一式	六角ボルト M6 × 15
		六角フランジナット M6
		セルフドリルビス 4φ × 13
		低頭ネジ(金色) M4 × 10

梱包番号	部材名
LM5-7104	ELDクエイクセンサー 取付け横桟 B
	ELDクエイクセンサー 横桟カバー
	ELDクエイクセンサー ケース取付金具(左)
	ELDクエイクセンサー ケース取付金具(右)
	ELDクエイクセンサー ケーブル支持金具
	ELD地震時自動解錠装置付きエルモ 商品シール
	ELD地震時自動解錠装置付きエルモ 注意ラベル
	ボルト一式
	六角ボルト M6 × 15
	六角フランジナット M6
	セルフドリルビス 4φ × 13
	低頭ネジ(金色) M4 × 10

梱包番号	部材名
LM5-7105	ELDクエイクセンサー 縦枠 右L
	ELDクエイクセンサー 縦枠 左L
	ELD アンカープレート(L)

梱包番号	部材名
LM5-7106	ELDクエイクセンサー 縦枠 右 H
	ELDクエイクセンサー 縦枠 左 H
	ELD アンカープレート(L)

梱包番号	部材名
LM5-7107	ELDクエイクセンサー ケーブルケース A

梱包番号	部材名
LM5-7108	ELDクエイクセンサー ケーブルケース E

※数量の () 内は片引き戸タイプ、[] 内は引分け戸タイプの予備数を表しています。



注意

「片引き戸タイプ」と「引分け戸タイプ」で組立手順が違う工程があります

(前工程～工程2)「片引き戸」「引分け戸」共通・・・P.3 ～ P.6

(工程3～工程4)「片引き戸」・・・・・・・・・・・・・P.7 ～ P.10

(工程3～工程4)「引分け戸」・・・・・・・・・・・・・P.11 ～ P.14

(工程5～工程6)「片引き戸」「引分け戸」共通・・・P.15 ～ P.16

前工程

アンカープレートの取り付け

片引き戸・引分け戸 共通

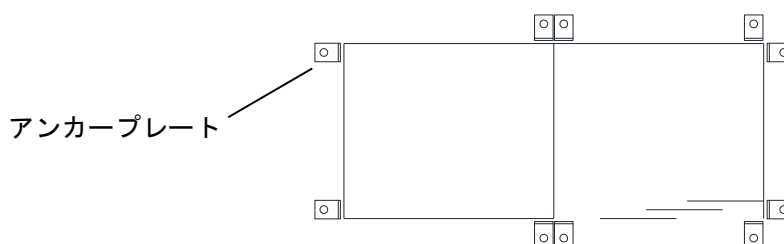


① 本体施工時に付属のアンカープレート(L)を設置し、固定します。

柱1本につきアンカープレート(L)2本、計8本

※アンカープレート(L)は本体部品梱包に4本、
地震時自動解錠装置の縦枠梱包(LM5-7105、7106)に4本
入っています。

連結タイプの場合は下図のようにアンカープレート(L)
を配置してください



② アンカープレート(L)を基礎天端に合わせて柱に7φの孔加工をします。



③ アンカープレート(L)と柱を固定します。

六角ボルト M6×15 (白): 8本、M6 ナット: 8ヶ

④ アンカープレート(L)をアンカーボルトとダブルナットで しっかり固定します。

全ての柱について同様に固定して下さい。



アンカープレートの取付けは本体の壁を取付ける
前に行ってください。

工程 1 縦枠の取り付け

片引き戸・引分け戸 共通



縦枠（左）

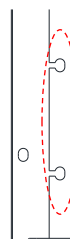


縦枠（右）下部にスリットがあります。

- ① 縦枠を本体の袖壁の上から、隅柱、扉間柱に取り付けます。
※袖壁を固定しているボルトは一旦外し、縦枠と
共締めしてください。



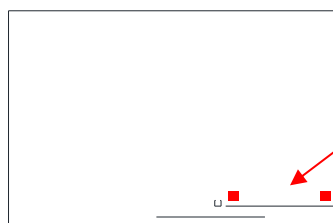
**必ず、庫内から見て左側の袖壁に
取り付けて下さい。**



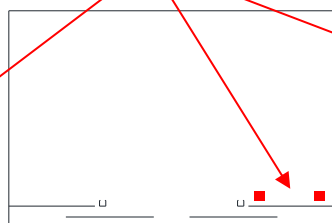
縦枠（右）下部のスリット

※本体がHタイプの場合、スリットは
1か所です。

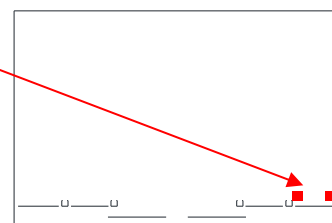
縦枠取り付け位置



片引き戸



引分け戸

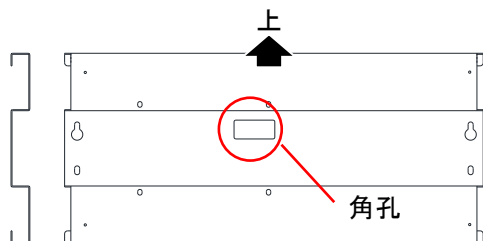


引分け戸（36間口）

※36 間口の場合は隅柱側の
袖壁に取り付けて下さい。

工程2 クエイクセンサーの取り付け

片引き戸・引分け戸 共通



取付け横棧オモテ面

① 解錠ユニットを取付け横棧の角孔に通します。

※角孔の木口で解錠ユニット・ケーブルを傷付けないよう気を付けて下さい。

※取付け横取付け横棧には表裏、上下がありますので、向きに注意して下さい。



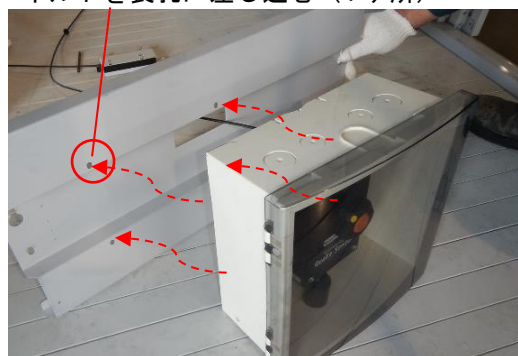
ケーブルに無理な力が掛かると装置を破損させる恐れがあります。ケーブルを強く引っ張ったり、無理に折り曲げたりしないよう注意して下さい。



解錠ユニットは扉に固定するまで、踏み付けたりしないよう安全な場所に避けて置いて下さい。



ボルトを長孔に差し込む（4ヶ所）



② クエイクセンサーケース背面のボルトに付属している M5 ナット、ワッシャーを取り外します。

M5 ナット： 4 ケ、ワッシャー： 4 ケ

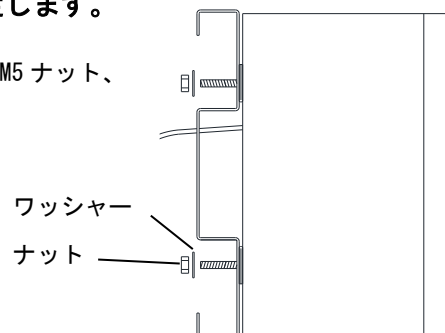
※ケースに付属の板ナットは取り外さないで下さい。

○部 ナット・ワッシャーを外す。

※板ナットは外しません。

③ クエイクセンサーケース裏側のボルトを取付け横棧の長孔に差し込み、取り外したナット、ワッシャーでクエイクセンサーケースと横棧を固定します。

取付け横棧のウラ側から M5 ナット、ワッシャーで固定します。



④ 縦枠に M6 ボルトを 2 本仮止めします。

（頭を 5 mm 程度残して下さい。）

横棧を仮預けして M6 ボルトで固定



- ⑤ 取付け横棧を仮止めした M6 ボルトに引っ掛け、取付け横棧を縦枠に固定します。

取り付けの際は、取付け横棧が水平になるように調整して取り付けて下さい。

六角ボルト M6×15 (白) : 4 本

※横棧背面から出ているケーブルが取付け横棧と縦枠の間に挟まらないように注意して下さい。



必ず水準器で水平を確認して取り付けて下さい。

傾いて取り付けると装置が正確に動作しない
恐れがあります



水準器で横棧の水平を確認



- ⑥ 横棧カバーを取付け横棧の両端に取り付けます。

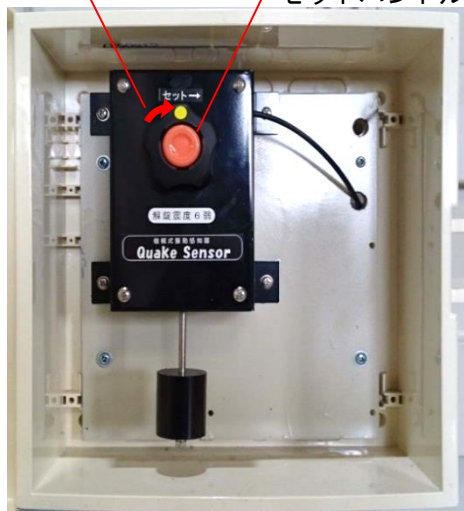
※横棧カバーに左右はありません。

セルフドリルビス 4φ×13 : 4 本

セルフドリルビス

“カチッ”と音が鳴るまでまわす

セットハンドル



- ⑦ クエイクセンサーをセット状態にします。

※クエイクセンサーのセットハンドルを時計まわりに
“カチッ”と音が鳴るまでまわします。

※セット状態では写真のようにセットハンドルの黄色い
目印が12時の位置に来ます。



必ずセット状態にして下さい。

セット状態でないと次工程で解錠ユニットが
取り付けづらくなります。

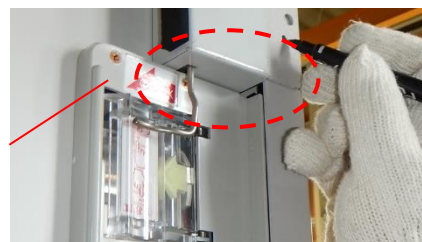
工程 3 解錠ユニットの取付け

片引き戸



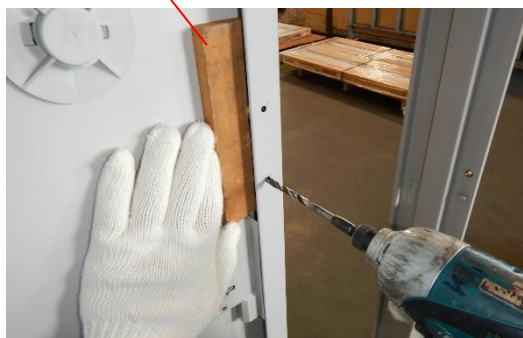
- ① 写真のように扉前室内側の本体錠に解錠ユニットをあて、ネジ孔位置に合わせ扉に目印を付けます。(2ヶ所)

写真のように錠カバーと扉フランジにぴたりと付けて下さい



錠カバー

当て木



- ② 目印に合わせドリルで扉に5φの孔加工をします。



ドリルで孔加工をする際には、裏に当て木を当てて扉表面を傷つけないようにして下さい。

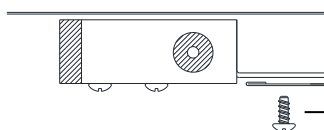


- ③ 解錠ユニットとクエイクセンサーをつないでいるケーブルを写真のように全体を伸ばしてねじれを取り除きます。



- ④ 解錠ユニットを扉前に固定します。

低頭ネジ M4×10 (金色) : 2本



解錠ユニットのフランジ部を扉フランジに差し込んで固定

— M4 ネジ (金色)



必ずケーブルにねじれが無い状態で解錠ユニットを固定して下さい。

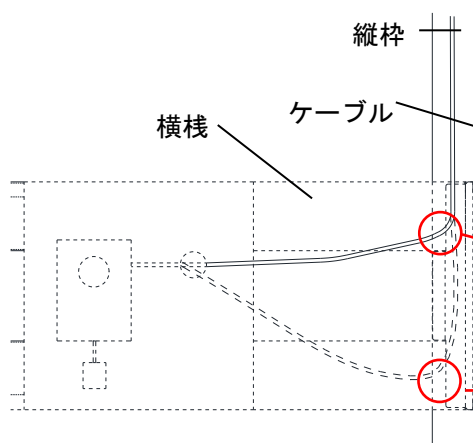
工程4 ケーブルの取り回し

片引き戸



- ① ケーブルを縦枠の切欠きから縦枠内側に通して上から出します。

※横枠の裏側に余ったケーブルがたるまないようにして下さい。



※本体がLタイプの場合は切欠きが2ヶ所あります。

ASタイプでLタイプの場合、下側の切欠きからケーブルを入れて下さい。

本体扉がHタイプの場合、上側の切欠きからケーブルを通します。

本体扉がLタイプの場合、下側の切欠きからケーブルを通します。
(※本体がHタイプの場合、下側の切欠きはありません)



- ② ケース取付金具（左）を扉間柱に取付けます。

セルフドリルビス 4φ×13：2本

※ケース取付金具（左）にはスリット状の切欠きがあります。



- ③ ケース取付金具（右）を前柱に取付けます。

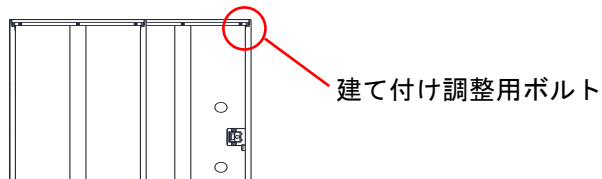
セルフドリルビス 4φ×13：2本

片引き戸タイプの組立て



④ ケーブル支持金具を本体扉に取付けます。

扉右上の建て付け調整用 M6 ボルトを一旦取り外し、戸車プレートと共締めしてください。



上からブッシングを
差し込む

⑤ ケーブル支持金具にケーブルを通し、あらかじめケーブルに差し込んであるブッシングを金具に差し込んで、ケーブルを固定します。

※ブッシングは2つケーブルに通してあります。ケーブル支持金具には解錠ユニットに近い側のブッシングを使用します。

※ブッシングの差し込み方向には向きがあります。

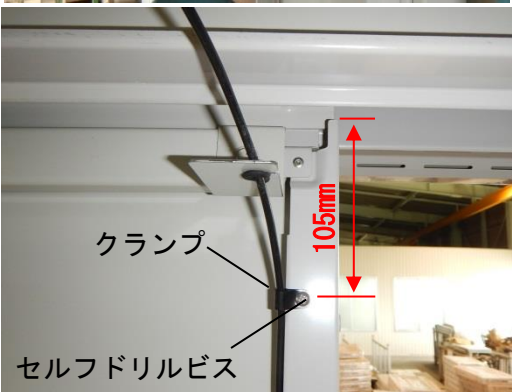
写真を参考にしてください。

※ブッシングが入れにくい場合は、ケーブルごと動かしながら押し込むと入れやすくなります。



右からブッシングを差し込む

⑥ 同様に、ケーブルケース支持金具（左）にもケーブルをブッシングで固定します。



クランプ

セルフドリルビス

⑦ ケーブルクランプでケーブルを扉に固定します。

付属の2つのクランプの内、1つを写真の位置（扉上から105mmの位置）にセルフドリルビスで扉に固定します。もう一つのクランプを、解錠ユニットと先に取り付けたクランプの中間位置に固定してください、

ケーブルクランプ（黒色）：2ヶ
セルフドリルビス 4φ×13：2本



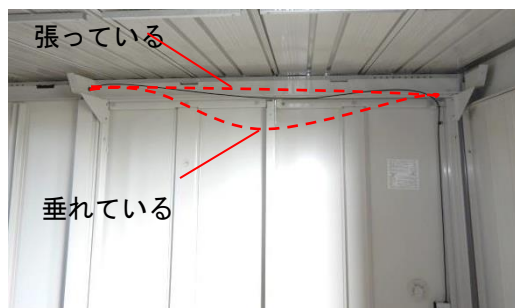
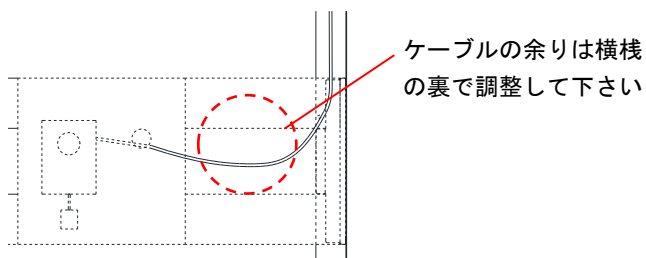
クランプ2ヶ所固定

ケーブルクランプは
下図の向きで取り付けます





- ⑧ ケーブルが写真のように自然な張りとなるよう、縦枠側でケーブル長さの調整を行います。



ケーブルが張っていたり、垂れていると装置が正常に動作しない恐れがあります。



- ⑩ ケーブルケースをケース取付け金具に取り付けます。

六角ボルト M6×15 (白) : 4本

この時、ケーブルをケース内に入れ込み、扉の開閉でケーブルが飛び出さない事を確認して下さい。

※ケーブルは確実にケース内に入れ込んで下さい。

「ケース上」からの飛び出

「ケース下」からの飛び出



どうしても「ケース上」から飛び出す場合は・・・



ケース上から飛び出してしまう場合は、左図のように一旦ケースを取り外し、ケーブルを下に5回程度引っ張り、ケーブルの張り(癖)を取り除いてください。

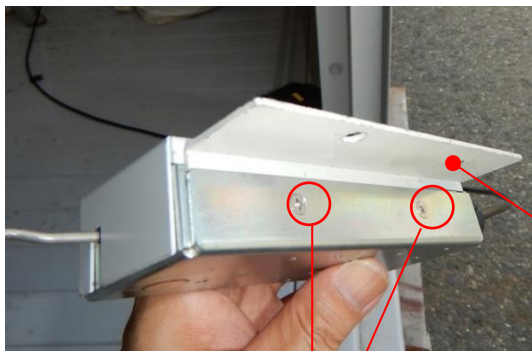


ケーブルを強く引っ張りすぎると両端の金具が破損する恐れがありますので注意してください。

※次の工程は P. 15 から始まります

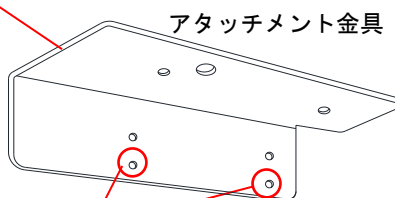
工程3 解錠ユニットの取付け

引分け戸



M3 皿ネジ

- ① 解錠ユニットのアタッチメント金具を付け替えます。
アタッチメント金具を固定している M3 皿ネジを外し、
写真のネジ孔に合わせ、再度アタッチメント金具を固定
します。



下側のネジ孔で固定

固定後に下図の寸法となっ
ているか確認して下さい



- ② 解錠ユニットを写真のように全体を伸ばした状態で
ケーブルのねじれを取り除きます。

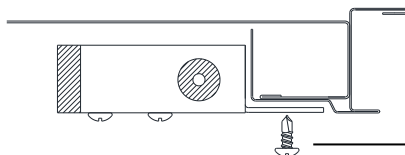


セルフドリルビス

- ③ 解錠ユニットを扉に取付けます。

セルフドリルビス 4φ×13：2本

写真のように解錠ユニットを扉に当て、セルフドリル
ビスでネジ孔の上から扉に固定して下さい。



扉枠の上から解錠ユニットの
フランジ部を当てて固定

セルフドリルビス

丸孔を扉のリベットに合わせます



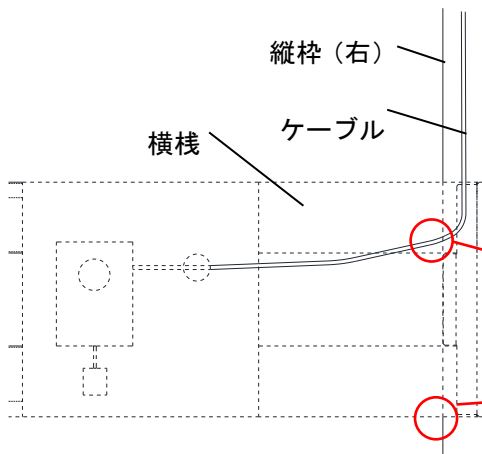
必ずケーブルにねじれが無い状態で解錠ユニット
を固定して下さい。

工程 4 ケーブルの取り回し

引分け戸



ケーブルを縦桎（右）の切欠きから縦桎内側に通します。
※取付け横桎の裏側にケーブルが余ってたるまないようにして下さい。



※本体がLタイプの場合は切欠きが2ヶ所あります。
扉が両開きタイプの場合は上側の切欠きを使います。
(※本体がHタイプの場合、下側の切欠きはありません)

上側の切欠きからケーブルを通します。

下側の孔は使いません。



② ケーブルケース取付金具（左）を左側の間柱前に取り付けます。

セルフドリルビス 4φ×13：2本

※ケース取付金具（左）にはスリット状の切欠きがあります。



③ ケーブルケース支持金具（右）を右側の間柱前に取り付けます。

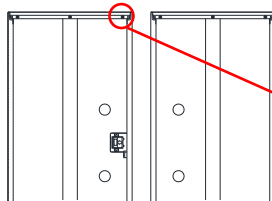
セルフドリルビス 4φ×13：2本

引分け戸タイプの組立て



④ ケーブル支持金具を本体扉に取付けます。

扉右上の建て付け調整用 M6 ボルトを一旦取り外し、戸車プレートと共締めしてください。



建て付け調整用ボルト



⑤ ケーブル支持金具にケーブルを通し、あらかじめケーブルに差し込んであるブッシングを金具に差し込んで、ケーブルを固定して下さい。

※ブッシングは2つ付属しています。ケーブル支持金具にはクエイクセンサーに近い側のブッシングを使用します。

※ブッシングの差し込み方向には向きがあります。

写真を参考にしてください。

※ブッシングが入れにくい場合は、ケーブルごと動かしながら押し込むと入れやすくなります。



⑥ 同様に、ケース取付金具（左）にもケーブルをブッシングで固定して下さい。

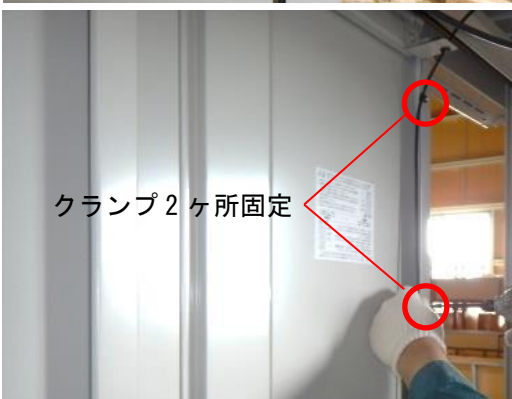


⑦ ケーブルクランプでケーブルを扉右に固定します。

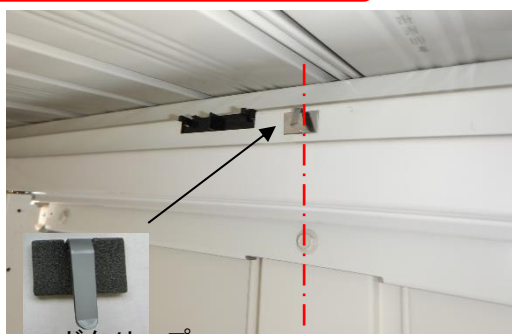
付属の2つのクランプの内、1つを写真の位置（扉上から105mmの位置）にセルフドリルビスで扉に固定して下さい。もう一つのクランプを、解錠ユニットと先程のクランプの中間位置に固定して下さい。

ケーブルクランプ（黒色）：2ヶ
セルフドリルビス 4φ×13：2本

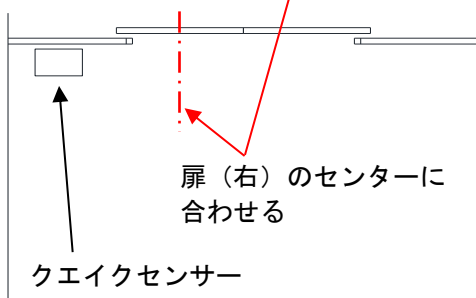
ケーブルクランプは
下図の向きで取り付けます



引分け戸タイプの組立て

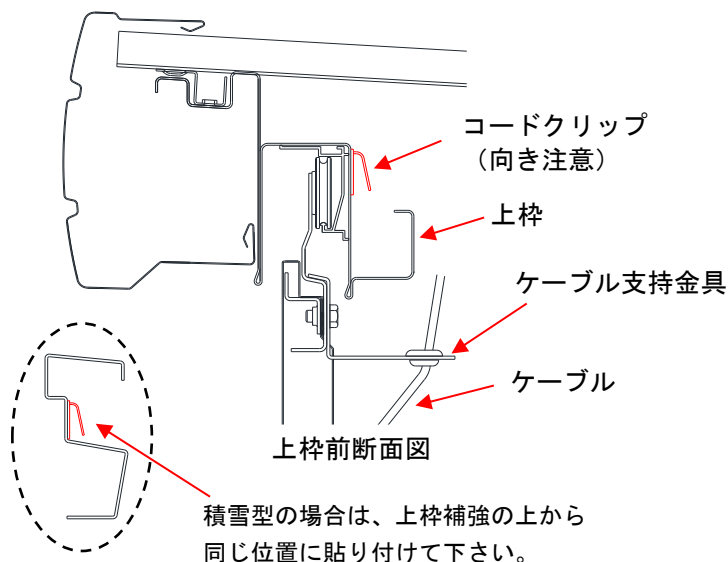


コードクリップ



- ⑧ コードクリップ（スチール：シール糊付き）1ヶを上枠に貼り付けます。

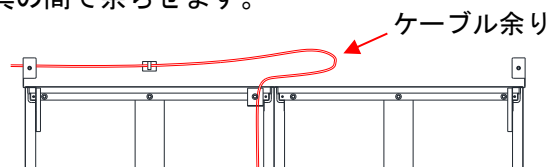
全閉時、庫内から見て左側の扉（右）のセンターに合わせ、下図を参考に貼り付けます。



- ⑨ コードクリップにケーブルを固定します。

※ケーブルが外れないようにしっかりと押さえてください。

※この時余ったケーブルは、コードクリップとケーブル支持金具の間で余らせます。



- ⑩ ケーブルケースをケース取付け金具に取り付けます。

六角ボルト M6×15（白）： 4本

この時、ケーブルをケース内に入れ込み、扉の開閉でケーブルが飛び出さない事を確認して下さい。

※ケーブルは確実にケース内に入れ込んで下さい。

ケース上からの飛び出し

ケース下からの飛び出し



工程5 動作テスト

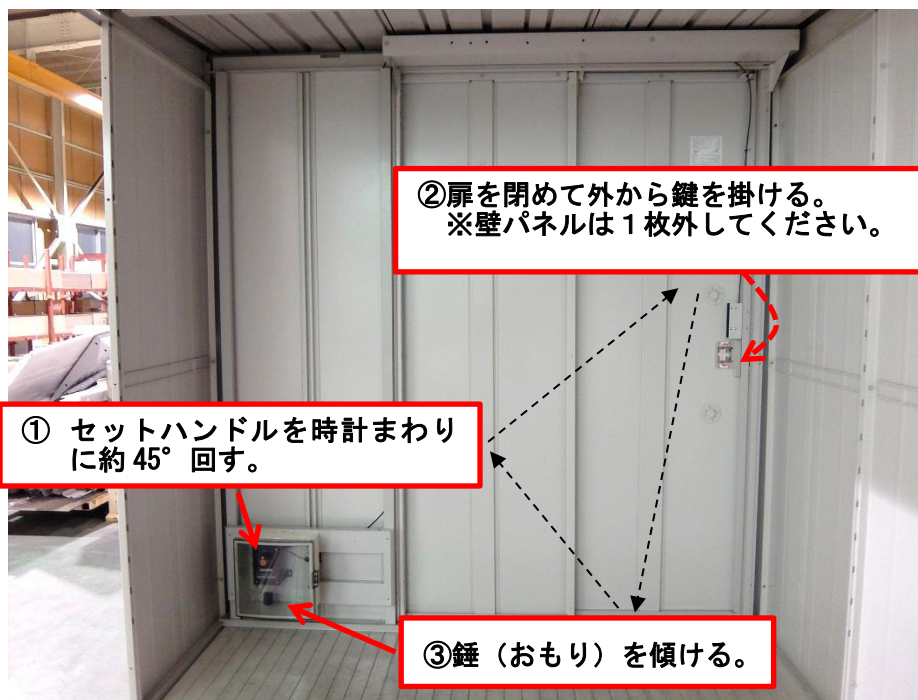
片引き戸・引分け戸 共通

動作テストをして問題ないことを確認してください。



動作確認する際、出入りが出来るように壁パネルを1枚外しておいてください。

セットハンドル
(写真はセット状態です)



②扉を閉めて外から鍵を掛ける。
※壁パネルは1枚外してください。

① セットハンドルを時計まわりに約45° 回す。

③ 錘（おもり）を傾ける。

動作テスト

① セットハンドルを時計回りに目印が12時の位置になるようにまわす。→ “カチッ”と音が鳴ります。

↓
② 物置本体の扉を閉めた状態で外から鍵を掛ける。

→ 扉が柱に対して隙間なく閉まることを確認してください。

※閉まらない場合

扉の建て付けを再度確認してください。

↓
③ クエイクセンサーの錘（おもり）を前後左右いずれかの方向に傾ける。→ スムーズに解錠されるか確認。

※スムーズに解錠されない場合は再度扉の建て付けをご確認ください。

扉の建て付けが正常であるのに解錠されない場合は最寄りの営業所に連絡してください。

↓
① ~③の確認を前後左右4方向で行う。→ 正常に作動しない場合は最寄りの営業所に連絡してください。

↓
④ 完了

⑤ 外した壁パネルを取り付けてください。

工程 6 注意ラベル貼付け・テスト記録用紙の設置

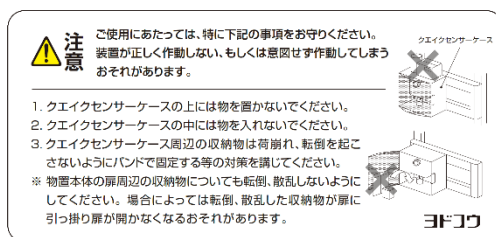
片引き戸・引分け戸 共通



- ① 注意ラベル（取付横桟梱包に同梱）を床面より 1600mm 程度の位置で、袖壁（庫内側）に貼り付けます。
- ② 注意ラベルの下にコードクリップを貼付け、テスト記録用紙を吊り下げて下さい。



注意ラベルは必ず貼り付けてください。



注意ラベル



テスト記録用紙



- ③ 商品シールを袖壁（庫外側）に貼り付けます。



お施主様のご意向によりシールの貼付けが不要な場合があります。
事前に確認してください。

ヨドコウ

LMD_OP18_KS_2025A